

芳原地区より



キク作りを頑張る

よこがわ あきのり
横川 彰範さん(66歳)

17アールのハウスで、主にキクを作っています。芳原地区は昔から花作りが盛んで、近所の農家に習いながら作り始めたことを覚えています。植えてから3カ月で収穫するので、植える時期をずらして長く出荷するようにしています。

旧JA高知春野では理事を3期務めました。農家の代表としてJA運営にかかわり、JAや農業を取り巻く動きを知る経験ができました。

健康に気を付けてまだまだ花作りをがんばります。

JA信用渉外メンバーを紹介します！

JAバンクは貯金、ローン、年金受け取りなど、総合的な金融サービスを行っています。組合員・利用者の皆さまに、より身近で便利、そして安心なメインバンクとなることを目指しています。

皆様の暮らしをサポートする金融渉外担当者が地域で活躍しています。入出金、融資、年金など身近な相談役として訪問しています。

左から、千頭誠、片山直人です。令和2年度はこのメンバーで頑張ります！

春野支所より



高知
地区

から こんにちは
今月の気になる人

直販部より



待ちよったよ！の声が励み

やま わき きみ こ
山脇 公子さん(78歳)

手作りの卵の花（おから）やイモ天、野菜はネギを作って出しています。10時ごろ出しに行くと、お客さんが「待ちよったよ！」と買ってくれます。おいしいと言ってもらえるのが一番うれしいですね。

唯一の趣味はカラオケ。三山ひろしさんの「四万十川」をよく歌います。ファンなのでコンサートに行ったこともあります。ビタミンボイスが元気の源ですね。

全力で「とうふ」作ってます！

たに わき ゆき ひこ
谷脇 行彦さん(35歳)

まりさん(40歳)

春野町東諸木でとうふ屋「豆匠庵」を営む谷脇さんご夫婦。まりさんの実家のとうふ屋を継いで8年目です。

国産大豆100%に高知産のニガリを使って濃厚なとうふに仕上げています。「なめらか塩とうふ」「ゆず奴」が夏場のオススメ。特に塩とうふは子供から大人まで、手軽に朝食やおやつ感覚で楽しめる新しい「とうふ」です。一度食べたらその濃厚さにおどろき、なめらかさがクセになります。

土曜日にお店を開けているほか、春の里、とさのさと等に卸しています。ネット注文も可能でHPには商品紹介の他レシピも掲載されています。(豆匠庵で検索)

諸木地区より



5

女性部

みそ作り始まる



大豆と米こうじを混ぜる部員（春野町）

春野地区女性部ミドル部会は毎年恒例のみそ作りを7月に行い、5人の部員が参加しました。蒸した米と大豆にこうじ菌を加えて発酵させ、手際よく丸めて桶に詰めました。このあと2度の繰りなおしをして半年後は約90kgのみそができあがります。

部員の山脇由美子さんは「コロナ禍で自粛していたが少しずつ活動を再開できてうれしい」と話しました。ミドル部会では焼き肉のたれやみそ作り、こんにやく作りなどを行っています。あなたも女性部活動に参加しませんか？ お問い合わせは営農渉外課 ☎ 9415660 黒住まで。

3

春野森山養鰻部

ウナギ食べて夏バテ知らず



とさのさと前でウナギを焼く塩田さん（高知市・とさのさと）

土用の丑の日に合わせ7月21日、直販所「春の里」と「とさのさと」前で生産者がウナギを焼いて販売しました。春野町は仁淀川水系の豊富な水を使った養鰻が盛んで、現在は年間15トンのウナギを水揚げしています。加工所でかば焼きや白焼きにしたのち真空パックして出荷。JAを通じて県内量販店などで販売しています。

部会長の塩田曜郎さんは「春野森山養鰻部ではウナギ本来のうまみを残す加工で、しっかりと焼き上げている。安全・安心な春野産のウナギを食べて夏を乗り切ってほしい」と呼びかけました。

6

とさのさとアグリコレット

発酵で野菜を
おいしく・簡単こうじ作り体験

ペットボトルを使って塩こうじづくりをする参加者（高知市・アグリコレット「キッチンプラス」）

とさのさとでは7月10日、Aコープ商品を使った発酵食品の講習会を開きました。塩こうじパウダーなどのAコープ商品を作る厚生産業の宮崎宏之佐さんが講師を務め、2回の講習で12人が受講しました。

併設のとさのさとキッチンプラスを会場にペットボトルを使い手軽にできる塩こうじと風味のよい醤油こうじ作りの他、キュウリのぬか漬、ナスの即席漬けなどを学びました。宮崎さんは「発酵食品はおいしいだけでなく腸内環境を整えるなど食で有益。積極的に取り入れてほしい」と力をこめました。

4

高知地区

ニーズ対応に加速・荒茶研修会



荒茶の外観を確かめる参加者（高知市）

営農販売事業本部は高知市で荒茶の研修会を開き生産者や茶商業者ら45人が参加しました。情報交換と荒茶の品質向上を目的に5回目の開催。

参加者はコロナ禍への対応や高知産荒茶の付加価値向上について意識を高めたほか、荒茶96点の茶葉の色合いや香りを入念にチェックし、2020年産荒茶の出来を共有しました。

同事業本部の西森数彦さんは「健康志向など消費者の嗜好の多様化に対応するとともに、生産したものが確実に売れるしくみ作りが必要。販売単価の高い加工場などに生葉を集約し効率を上げたい」と話しました。

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



表彰される井上さん（高知市・JAビルで）

1 高知地区

津野山 井上さんが最優秀
営農指導員・「一人一研究体験発表」

営農指導員の相互研鑽を図り、資質向上を目的に「一人一研究体験発表」を高知市のJAビルで開きました。

県内の営農指導員8名が日頃の業務や研究の成果を発表し、最優秀賞に津野山営農経済センターの井上高徳さん、優秀賞にとさし営農経済センターの寺田広貴さんが選ばれました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、規模を縮小して開催。営農指導員、営農担当者ら37人が参加しました。発表の様子

はビデオ撮影し、県内の指導員で情報共有します。

井上さんは「目指せ販売金額1億円！土佐甘とうが導く山間地の未来」と題して発表し「5年後には1億円産業に発展させ山間地の農業を守る」と締めくくりました。審査講評では「ストーリーが分かりやすく成果に結びついている。必ず農家のハートをつかむだろう」と井上さんを高く評価しました。井上さんはJA営農指導実践全国大会四国地区代表選考会に県代表として出場します。



新米を積み込んで出発するトラック（高知市）

2 高知地区

高知の早期米が初出荷・進発式

購買事業本部は高知市五台山の同事務所で2020年産米の進発式を開き、関係者ら30人がテープカットなどで新米販売のスタートを祝いました。新米を積んだトラック3台が関西方面に向けて出発し、関係者は拍手でトラックを見送りました。

早期米の県内トップ出荷となった品種は「南国そだち」。収穫時期に雨天が続く平年より2日ほど遅れたものの大粒に仕上がりに、品質は平年並みに良い。

秦泉寺雅一副組合長は「県産米のリリース出荷ができるようバランスの良い作付けを推進してきた。安全、安心でおいしい県産米の消費拡大に努める」と挨拶しました。

JAグループ高知の20年産米は、県内作付面積の約6割の6700ヘクタールで、昨年を上回る7650トンの取り扱いを見込んでいます。

式では新米の試食を行い、出席者の福永早苗さんは「新米はおいしくて食べ応えがある」と口に運びました。

農薬による事故を防ぐために 気をつけること

農林水産省では6～8月を農薬危害防止運動期間として、毎年水稲における農薬散布の多いこの時期に農薬の安全使用について啓発活動を行っています。今年のテーマは「農薬は、周りに配慮し、正しく使用」となっています。

ここでは、過去5年間に全国で発生した主な農薬事故について、原因別に事故が起こった状況と考えられる対策を抜き出しましたので、これらの事例を参考に対策を行い、農薬事故を起こさないように注意しましょう。

下表にはありませんが、廃液の河川等流入による魚のへい死疑い事例も5年間で30件以上発生しています。農薬の適用外使用、希釈倍率の間違いなども含めて、今一度農薬の安全使用について考えていきましょう。

表 平成26～30年における原因別農薬事故の発生状況及び考えられる対策

原因（5年間の事例数）	状 況	考えられる対策
誤飲誤食（41事例）	・ペットボトルに移し替えた農薬を誤飲 ・農薬を飲料ボトルと並べて置いていたため誤飲 ・認知症の人が飲料と間違えて誤飲	・農薬は保管庫にカギをかけて保管する。 ・農薬を別の容器に移し替えて保管するのは絶対にやめる。（法令違反） ・農薬を扱うところにペットボトルなどの食品用の空容器を置かない。 ・飲食するところに農薬を置かない。また農薬を扱うところで飲食しない。
マスク、メガネ、服装等 装備不十分により露出部分に被爆（22事例）	・調整時・散布時に装備が不十分	・できるだけ露出部分を少なくする。 ・マスクは使用する薬剤に対応するものを装着する。
農薬使用後の作業管理 不良（16事例）	・クロルピクリンの使用後に被覆を行わなかった。もしくは被覆資材が不完全であったため、通りがかった人が吸引して体調不良	・クロルピクリンによる土壌消毒は十分な被覆が必要なことの認知とそれに耐える資材を用いる
散布農薬の飛散による もの（6事例）	・畑で散布された農薬が飛散し、畑に隣接する道路でマラソン大会の練習をしていた生徒が暴露 ・桜に散布された農薬が飛散して、通園途中の母子が暴露 ・学校から依頼を受けている業者が授業中に敷地内の樹木に農薬散布し、窓を開けて授業を受けていた児童が体調不良	・周辺住民への事前連絡 ・立て看板等を設置して周知 ・風向きを考慮したり、飛散にくい時間帯に行うなど最大限考慮する。できれば、学校が休日に作業を行う。
使用時等に注意を怠ったため本人が暴露（9事例）	・農薬が衣服の上から暴露（調整時） ・農薬容器の蓋を探している際に、揮発した農薬を吸引	・調整時や使用後も農薬を扱う間は防除用装備をする。

注）農薬の使用に伴う事故及び被害の発生状況について（農林水産省）より抜粋

生産予測システムをご活用ください。

自身・部会の出荷量や品質、今後の出荷量予測値などをスマートフォンやパソコンで閲覧できます！ 利用には、個人ごとのID・パスワードが必要です。集出荷場事務所にてお受け取り下さい。



えいのう～ 役立つ！ 得する！ 情報

あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

エンドウ マメ科の連作に注意

園芸研究家●成松次郎

エンドウには若いさを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、そして若く充実した豆を取る実取りエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。

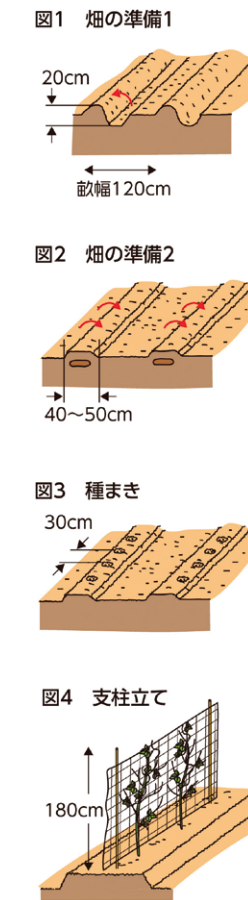
【品種】サヤエンドウでは、「ニムラ白花きぬさや」（みかど協和）、「砂糖エンドウ白星」（松永種苗）など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」（みかど協和）、「スナック753」（サカタのタネ）などがあります。

【畑の準備】マメ科野菜は、同一の畑で連作すると生育障害が出やすく、4～5年はマメ科を入れない畑を選びましょう。種まき2週間前に畑1平方m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。次に、1週間前に畝幅120cmを取り、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料（NPK各

成分で10%）100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜて幅40～50cmの畝を作ります（図1・2）。【種まき】一般地では10月中旬～11月上旬が適期で、早まきして年内に生育が進み過ぎないことが大切です。じかまきでは、株間30cm程度、1カ所4～5粒をまきます（図3）。発芽の頃に鳥害を受けやすいため、不織布をべた掛けして保護します。発芽がそろったら2本を残し、他は間引きます。なお、小さなポットで育苗して、本葉2枚の頃、畑に植え付けることもできます。

【支柱立て】早春から生育が盛んになり、つるあり種ではつるを絡ませるため支柱を立てネットを張ります（図4）。【病害虫の防除】さやができる頃からハモグリバエが多発します。マラソン乳剤などを使用基準に従って防除します。うどんこ病には、カリグリーンなどの農薬で予防します。

【収穫】サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形となる開花後25日前後です。

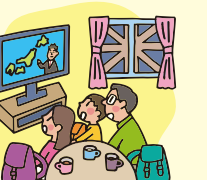


お天気カレンダー

台風の中の中は？

気象予報士（株式会社ハレックス）●檜山靖洋

台風シーズン真っただ中です。台風への備えをあらためて確認しておきましょう。さて、台風の中に入ったことはあるでしょうか？
そもそもなぜ台風の中に入るのかというと、台風は中心に向かって反時計回りに強い風が吹き込みます。速度の速い乗り物がカーブに差し掛かると、体が外に引っ張られる遠心力が働きます。台風も同じように、風が強まると外側に引っ張られる力も強まり、中心に風が吹き込めなくなります。風が吹き込めなくなった部分が台風の中です。台風の中の中では風が弱く晴れることもあります。台風の勢力が強いほど、目がはっきりします。
台風の中に入りたいと一度は思ったことがあるかもしれませんが、台風の中は穏やかでも、その前後にはものすごい暴風が吹き荒れることになります。



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

あじさいの世話をなさっている長崎さんの写真をつかしく拝見しました。亡き妻と懸崖菊を作っていたころわざわざ鉢植えの指導に来てくださいました。どうかお元気で！

(春野町弘岡下 97歳)

▼あじさい神社のあじさいを管理されている長崎さん。「花が好きやき続けようがよ」と話してくれました。末永く活動を続けてほしいですね。

嶺北産の米粉を使った「土佐米ロール」夏向きでおいしそうですね。「グリーンレモンスカッシュ」といったいたら最高の気分だと思います。

(春野町弘岡中 65歳)

▼しつとりした米粉ロールをグリーンレモンのさわやかさが引き立てるでしょうね。合わせていただきたいですね。

作ってみんなかえりのグリーンレモンスカッシュは夏バテ防止にいいですね。私のレシピ集に加えました。

(仁淀川町 63歳)

▼幡多地区黒潮町のグリーンレモン、安全・安心な高知県産なので皮まで使ったその香りを楽しみたいですね。気持ちまでリフレッシュできそう！

「うまいもん体験団」川で遊んでいる子供たちが楽しそう。川の水もきれいでいいですね。

(春野町平和 71歳)

▼自然の中で楽しみながら収穫体験やソーセージ作り。大人も子ども表情が輝いています。何度も参加するピーターが多いのもうなずけますね。

黒糖あいす、食べてみたいです。

(高知市愛宕山南町 73歳)

▼黒潮町産のサトウキビから作った黒砂糖はコクがあり、黒糖あいすには天日塩も入っている。夏ミネラル補給にぴったりです。ここにこの市他とさのさとも販売しています。

野菜を作ることに興味があり退職後にいろいろ作っていますがうまく育たない。人に売るものを作るのは大変だと頭が下がります。

(春野町平和 67歳)

▼こうぐりでは家庭菜園のページを設けています。ぜひご参考になさってください。

今月の気になる人に知り合いが載っていました。

(高知市十津 64歳)

▼地域でがんばる人を毎月紹介しています。しつかりお話を聞いてお人柄をご紹介します。

県外にいる孫に何か送ろうと春の里に行くとスイカやメロンが目にとまりました。喜んでくれるかな！

(春野町弘岡上 75歳)

▼直販所「春の里」のご利用ありがとうございます。生産者が丹精込めて育てた果物、きつと喜んでもらえたと思います！



INFORMATION

お知らせ

きゅうり部会よりお願い
空きハウスを探しています
空きハウス活用しませんか

新規就農者独立への取り組み

きゅうり部会では栽培面積の減少を防ぎ産地を維持することを目的に、平成24年より指導農業士の元で新規就農希望者の研修を1年間行い、終了後は独立・就農していただく取り組みを行っています。

研修終了後の新規就農者は中古ハウスを借りてきゅうり栽培をスタートします。つきましては使用していないハウスがある方、その様な情報をお持ちの方は営農渉外課（☎894-5660）へご連絡をお願いします。新規就農者へハウスを貸していただきますようお願いいたします。

研修終了後新規就農者数・栽培面積

平成26年	平成27年	平成28年
1名・20㍓	3名・60㍓	2名・30㍓
平成29年	平成30年	令和1年度
1名・29㍓	1名・15㍓	1名・10㍓

【連絡先一覧表】

春野支所

総務課	894-3033
信用課	894-2203
共済課	894-3304
金融渉外課	894-3309
高吾サービスセンター (事故処理)	892-3605

営農経済センター

販売課	894-2222
営農渉外課	894-5660
購買課	828-6111
ビニール加工場	894-4264
農機センター	894-5290

営農経済センター

店舗課	828-6116
JAグリーンはるの店	828-6161
配送部門	828-6113
重油係	828-6115
Aコープはるの	894-2225
養鰯出荷・加工場	894-5424
はるちゃんのアイス屋	894-2760

JA子会社

(株)JAエナジーこうち 春野給油所	828-6212
ルミエールはるの	(フリーダイヤル24時間) 0800-200-5911